

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
小児がん拠点病院等の連携による移行期を含めた小児がん医療提供体制整備に  
関する研究

研究分担：小児がん拠点病院による小児がん医療提供体制の検討  
分担研究報告書

研究分担者 武本 淳吉 九州大学大学院医学研究小児外科分野 助教  
研究協力者 大賀 正一 九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野 教授  
古賀 友紀 九州大学大学院医学研究院周産期・小児医療学講座 准教授

**研究要旨**

本研究では、小児がん拠点病院及び小児がん診療病院の診療レベルの向上を図ると共に、診療連携方法の確立を研究しチーム医療を推進することで、真に機能する連携のあり方を検討する。

また、小児がん経験者とその家族が安心して生活できる社会の実現に資する提案をまとめる。

**A. 研究目的**

小児がん拠点病院としての機能充実と、九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会構成施設における連携確立を目指す。

ブロックの連携病院を対象とした「長期入院患者への教育支援に関する現状調査」の実施  
(6) AYA 世代（高校生）の入院患者への学習支援

**B. 研究方法**

主に下記を行った。

- (1) 九州・沖縄ブロック内の長期フォローアップ体制の確立
- (2) 小児緩和ケアチームでのグリーンカードの配布と医療者向けの勉強会を開催
- (3) 小児がん診療における Quality indicator (QI) の作成
- (4) 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院 TV 会議の開催
- (5) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会相談支援部会の開催と九州・沖縄

**C. 研究結果**

(1) 小児がん内科・外科専門医のみならず、内分泌専門医、脳外科、整形外科、精神科神経科、産科婦人科、泌尿器科、眼科、歯科などの各診療科、看護師、小児がん相談員などが連携し、二次がんや晩期合併症の内容に合わせてより適切な診療を提供できるよう、集学的な診療を行う『小児・AYA 世代がんフォローアップ外来』を設置している。地域ブロック内の小児がん連携病院と連携し、標準治療で対応

できる小児がんは連携施設で治療を行い、治療を終えた小児がん経験者や小児がん拠点病院で治療を終え、地域に戻って生活する小児がん経験者の長期フォローアップにつなげている。

(2)小児緩和ケアチームの活動の一環として、グリーフカードの配布を行っている。このカードはお子さんを亡くされたご遺族へ死亡診断書と共にお渡ししている。帰宅後にご遺族が当院でのグリーフケアを希望された際に、当院への連絡手段のひとつとなることを目的とし、グリーフケアも積極的に行っている。また、令和3年1月25日に「つながるグリーフケア」と題し、医療者向けのWeb勉強会を開催し、院内外の多くの医療従事者へグリーフケアの重要性を周知した。

(3)院内の関係各部署に協力を依頼、データを収集し、回答した。

(4)九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会構成施設に、隣接する中国四国ブロックの小児がん拠点病院である広島大学を加えた全17施設が接続するTV会議を毎月第4月曜日に開催している。会議では、各施設が持ち回りで当番施設を担当し、症例発表や小児がんに関するテーマを決めた討論会を行っている。また、九州・沖縄ブロック小児がん看護ネットワーク会議を年3回、勉強会（講演会）を年1回行った。九州・沖縄地域の17施設が参加し、小児がん看護に関する事例検討や意見交換を行っている。

(5)九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会相談支援部会を年1回開催している。今年度は第5回相談支援部会を令和3年1月14日に開催し、中央連絡会議の報

告や小児がん拠点病院からの情報提供を行った。また、九州・沖縄ブロックの連携病院を対象とした「長期入院患者への教育支援に関する現状調査」を実施し、教育支援についての問題点を話し合い、情報共有を行った。取りまとめた資料を第16回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会にて協議会委員、各県の担当者へ配布した。

(6)昨年度より、高校生の入院患者を対象とした学習サポーター（学生アルバイト）を配置し、週2回学習サポートを行っている。また、学校と連携を図り、学校と病室をつないだWeb授業を実現し、必要な機材の貸し出し等のサポートを行った。

#### D. 考察

コロナ禍においても、医師、看護師、多職種がそれぞれの分野にてWeb会議システムを利用したカンファレンス、研修等を継続的に行い、地域の小児がん診療に係る実情、課題を収集し、最新の小児・AYA世代がん診療と支援についての意見交換や情報共有ができる機会を設けることができている。また、AYA世代（高校生）の入院患者への学習支援については、コロナ対策により、多くの学校でWeb授業が可能となり、高校生が病室で授業を受けることができるきっかけとなった。

#### E. 結論

各地域のがん診療やがん患者・家族への支援体制の現状をWeb会議等で共有することにより、地域ならではの問題点や課題を把握できた。今後も連携病院、行政、患者会等と連携を図りながら問題解決に

取り組み、治療開始から長期フォローアップまでシームレスな医療の実現を目指していく。

**F.健康危険情報**

なし

**G.研究発表**

なし

**1. 論文発表**

なし

**H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）**

**1. 特許取得**

なし

**2. 実用新案登録**

なし

**3.その他.**

なし